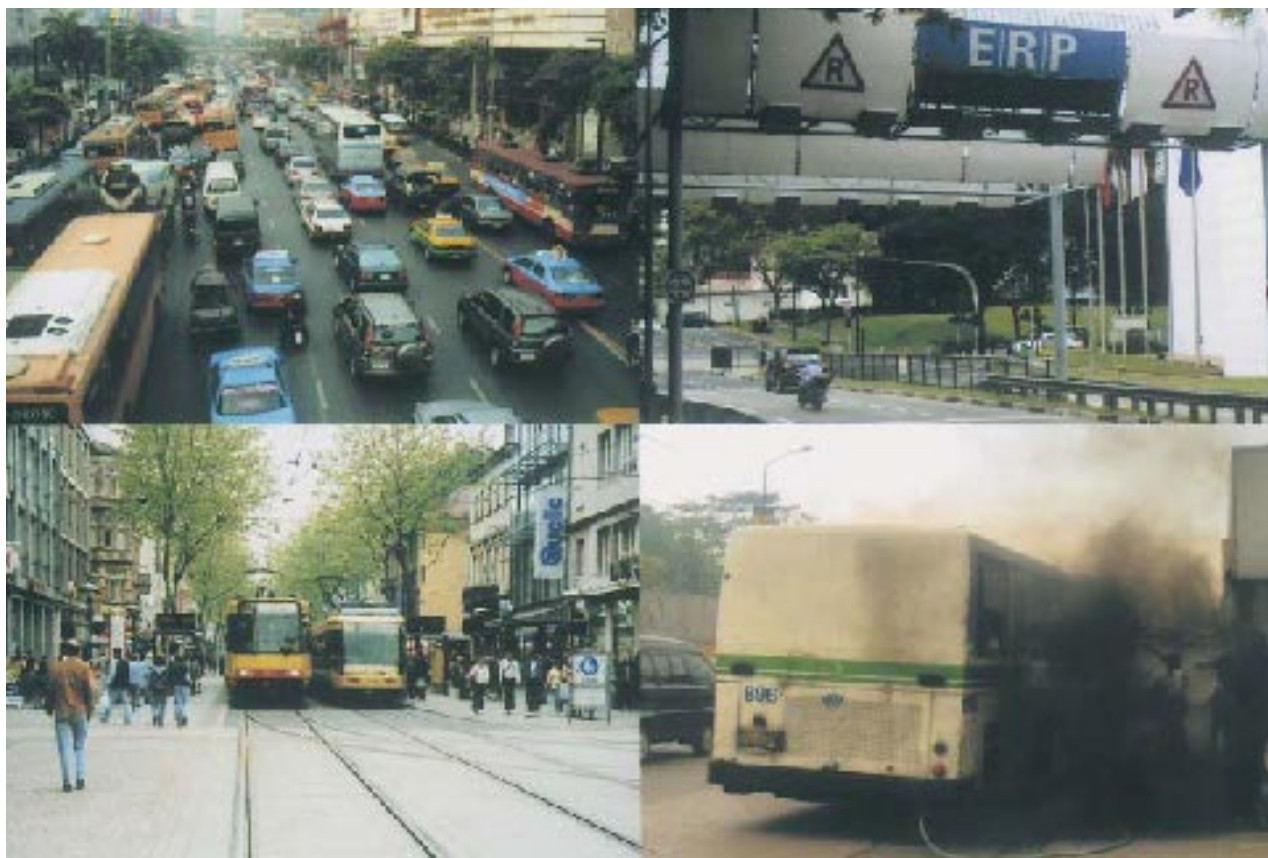




(業績名)

CUTE (International Comparative Study on Urban Transport and the Environment) プロジェクト

CUTE Project - International Comparative Study on Urban Transport and the Environment

中村英夫 林 良嗣 宮本和明 小林良邦 加藤博和 花岡伸也 有村幹治 紀伊雅敦 岡田 啓
Hideo Nakamura, Yoshitsugu Hayashi, Kazuaki Miyamoto, Yoshikuni Kobayashi, Hirokazu Kato, Shinya Hanaoka, Mikiharu Arimura, Masanobu Kii and Akira Okada

授賞理由

交通活動は世界的に、地球温暖化や大気汚染・騒音といった環境問題の主因の1つであり、先進国、開発途上国双方において様々な対策の取り組みがなされてきた。しかし、交通活動に伴う環境影響の発生メカニズムは非常に複雑で、土木工学・経済学・化学・自動車工学・政治学など多くの専門分野にまたがるため、問題の理解が断片的になりがちであった。また、国・都市で独自に培われた対策の経験が他地域に参考にされなかった。交通活動に伴う環境問題を適切に解決するためには、各国でとられた対策の経験を他の国々が共有できる知識ベースとしていくことが極めて重要である。この問題意識に基づき、交通環境問題に関心を寄せる世界20カ国の研究者約50名が参加し、受賞者らが中心となって実施した国際共同研究プロジェクトがCUTE (International Comparative Study on

Urban Transport and the Environment) プロジェクトであり、交通活動が環境に及ぼす影響メカニズム、とるべき戦略・政策の切り口、および政治的課題が体系的に整理された。自動車の歴史、交通システムと土地利用メカニズム、エンジン・燃料と排ガスの影響、交通と土地利用の戦略と政策、21都市の交通と環境の状況及びグッド・プラクティス、環境に関する国際的政治情勢と資金メカニズムなどの知見は書籍（英語版と日本語版）にまとめられ、この分野において高い評価を得ている。以上の理由で本プロジェクトは環境賞を受けるに相応しいと判断した。



(プロジェクト名)

平良港「トゥリバー地区の自然海岸の保全・活用とサンゴ移植による環境創造」

Hirara Port: Preservation and Utilization of the Natural Seashore and Creation of an Environment by Coral Transplanting in the Toriver District

内閣府 沖縄総合事務局 平良港湾事務所 宮古島市 建設部 港湾課
Hirara Port Office, Okinawa General Bureau, Okinawa Development Agency, Harbors Division, Department of Construction, Miyakojima City Office

授賞理由

平良港トゥリバー（宮古の方言で「静かな入り江、湾」の意味）地区は、沖縄県のリゾート計画に対応した海洋性レクリエーション拠点を整備するものとして、「平良港コースタルリゾート計画」に基づき、平成5年に現地着工している。

整備にあたっては、既存の水際線と埋立地の間に水路を設けて自然海岸の環境を保全するとともに、水路護岸の構造を自然石（琉球石灰岩）による傾斜式護岸として生物環境への配慮を行っている。また、親水性防波堤・護岸にはサンゴ礁が着生しやすい琉球石灰岩を使用するとともに、沖合いの防波堤建設で消滅するサンゴを親水防波堤の被覆石に移植する実験を行うなど自然環境の保全・創造に勤めている。

豊かな自然環境の保全・創造及び住民との共生を基本コンセプトとして、地元中学生等

を対象にしたアマモ場観察会や水路の穏やかな海面と自然環境を活用したシーカヤックによる自然体験学習会などを実施しており、自然環境の保全を利用に配慮したプロジェクトとなっている。

また、平良港では海水交換機能を有する生物着生促進型の防波堤（環境共生型防波堤）の検討・開発や防波堤整備に伴い消滅するサンゴ礁を岩盤ごと移築する技術の開発・実施にも取り組んでいる。

これらの環境の保全・創造への貢献により、本プロジェクトは土木学会環境賞に値するものとして認められた。